

公立校ながら強豪として知られる筑紫高校ラグビー部には、現在6人の女子選手が所属しています。しかし、8年前までは男子選手しかいませんでした。

平成23年、一人の女子生徒が筑紫高校ラグビー部に入部。同校初の女子選手として道を切り開いたその選手の名は、南 早紀さん。現在、サクラフィフティーン(ラグビー15人制女子日本代表)のキャプテンとして、目標に向かって走り続けています。

南 早紀 Saki Minami

平成7年11月18日生まれの23歳。天拝小学校、二日市中学校、筑紫高校卒業。日本体育大学在学中に日本代表に初選出され、今年7月のオーストラリア戦からキャプテンを務める。現在は会社員として勤務しながら、女子ラグビーチーム「横河武蔵野アルテミ・スターズ」でも活躍。趣味はウクレレ、パン作り。好きな言葉は「なんとかなる」。

ゆめ ゆめ お
夢を夢で終わらせない。

ラグビー15人制女子日本代表 南 早紀



横河武蔵野アルテミ・スターズでプレーする南選手

家族がいつも支えてくれた

兄の影響でラグビーを始めたのは3歳の時。他にも水泳や柔道などのスポーツに明け暮れた南選手は「家族のサポートが大きかった」と話します。特に、栄養のバランスを考えた母の手料理は育ち盛りの南選手を支えました。

多くのスポーツを経験した南選手はラグビーのチームプレーに夢中になりました。そして、高校進学を機にラグビーに専念します。

あの日々があるから今がある

筑紫高校ラグビー部初の女子選

手になった南選手。男性の中に一人女性が入ることに迷いや恐怖などはなかったのでしょうか。

「全くなかったです。練習中、何度か吹っ飛ばされましたが、負けず嫌いなので「男子に負けるものか!」という気持ちでやっていました。男子と一緒に練習していたから、体格差のある相手とも戦える今があると思います」

目標を常に持つこと

19歳から日本代表としてプレーする南選手。そんな自身をいつから思い描いていたのでしょうか。「ラグビーを始めた頃からずっと「日本代表になる!」と言っていました。その夢をかなえるため、自分の苦手なことに向き合うことを意識してきました。逃げたくなくなる時もあります。それでも、また立ち向かうこと。また、夢を夢で終わらせないために、具体的な目

標を常に持って、それを公言しています。今の目標は2021年のワールドカップ出場、そして上位7チーム入りすることですね」

組織力で戦うチームづくりを

目標達成に向けて、思いを聞きました。

「まず、体を少しでも大きくすること。そして世界との体格差を技術、スピードで補うことです。ま



「今まで支えてくれた皆さんへの恩返しを」日本代表としての抱負を語る南選手

世界ランキング

- 1 ニュージーランド
- 2 イングランド
- 3 フランス
- 4 カナダ
- 5 アメリカ
- 6 イタリア
- 7 オーストラリア
- 8 ウェールズ
- 9 スペイン
- 10 アイルランド

16 日本

※8月26日現在。ワールドラグビーホームページより。

ワールドカップは4年に一度開催。2017年アイルランド大会で日本は11位。2021年大会はニュージーランドで開催される。

World Rankings

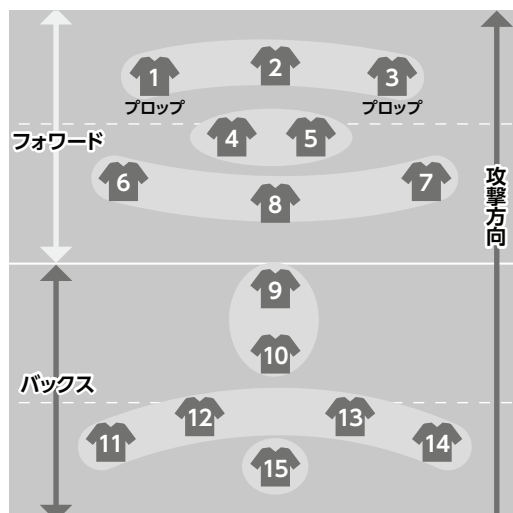
た、チームメイトへの目配り、気配りをしながら組織力を高めることを意識して、結束したチームづくりをしていきたいです」

ラグビーを盛り上げたい!

最後に、筑紫野市の皆さんへ

メッセージをお願いしました。

「ラグビーはボールがどこに転がるか分からず先が予測できないスポーツで、選手同士の迫力あるぶつかり合いも魅力です。日本が強くなるためにはもっと競技人口を増やす必要があります。多くの人がラグビーを好きになるように盛り上げたいと思っていますので、応援よろしくお願いします!」



Position

15人制ラグビーは「フォワード」8人と「バックス」7人に分けられ、南選手はフォワード最前列の「3番プロップ」。プロップとは「支柱」を意味し、南選手は「スクラムの要(かなめ)で、一番パワーが必要なポジション」と話します。